

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 2 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200700		
法人名	(有) 藤山商事		
事業所名	グループホーム縮景園		
所在地	広島市中区上幟町5番17号 (電話) 082-511-1121		
自己評価作成日	平成29年 1月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200700-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県広島市安芸区中野東4丁目11-13
訪問調査日	平成30年2月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

広島市内の中心部に位置しており、近くのデパートまで散歩がてら行く事が出来て、目の前には名勝縮景園とその隣には美術館があります。春になって散歩に縮景園に行くと前撮りの花嫁を見ながら思わず「きれいね」と声を出されて喜ばれます。毎日の生活を「ゆっくり、ゆったり」をモットーにした当施設で、その人その人のペースで生活出来る様、支援し環境作りに職員一同頑張っております。母体であるワカサ・リハビリ病院より週3回院長と正看護師の往診で入居者様の高齢に伴い健康管理も病院との連携を強化し、日々努めております。入居者様と御家族様が毎日安心して信頼出来る様施設の体制作りを一生懸命行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム縮景園は、市街地の中心に位置し、鉄筋5階建てで、もっと許容力のあるホームでありながら、内容を充実させていく事を第一という考えで、次に拡げていく方針がある。ホームにとって一番の利点は、目の前に名勝縮景園があることが挙げられる。高齢者にとって、ゆっくり周りを散策しながら、散歩が出来る。しかも広大な敷地の中で、安全面においても安心と言える。近隣にデパート等があり、利用者の今までの生活環境に合わせることににおいてもゆとりを感じさせる。又、ホームでは、立地の良い認知症カフェを開設し、周りに住んでおられる独居の方や民生委員の方が集まり、憩いの場になっている。最近では、30人位の参加者がある。ゆっくり、ゆったりとした静かな時間が流れるホームである。

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝の申し送り後にその日の出勤職員と事業所の理念を大きな声で御唱和をし、夜勤者のねぎらいと日勤職員のスタートのけじめをつける事でその日の実践につなげている。	法人の理念である「明日のことを 思いわずらう事よりも 今日一日を輝いて」を掲げ、申し送り時に職員みんなで、唱和して、理念に基づいて、実践に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との交流が難しい中で施設前の道路の端から端までを綺麗にすることで地域の皆様に気持ち良い一日を過ごしていただけたらと職員が毎日清掃している。	町内会に入会しており、少しずつ地域に溶け込んでいる。初めは、ホームの周りの清掃をしながら、通りで出会う方に挨拶を続けながら、地域の一員として認知してもらえるようになった。昨年、近くに認知症カフェを開設することが出来、近隣の独居の方・地域包括支援センター職員・民生委員と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所に広島市認知症アドバイザー登録をしている職員があり、近所で親の認知症で悩んでいらっしゃる方からの見学やお電話など相談があった時、アドバイスをしながら出来るだけ御家族様の悩みを軽減するようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を実施する時は事前に案内状をお送りしている。又、包括支援センター様・民生委員様・御家族様と皆様の協力を元に意見、情報交換をしたり、皆様の意向をお聞きしてサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。参加者は、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、統括責任者、ユニットリーダーで利用者の状況や活動報告をして、皆さんからの意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議の構成員を地域に働き掛け、もっと増やされる事を期待しています。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の報告書を奇数月には送付しており、GH縮景園の状況を知ってもらっている。また、何かわからない事があれば市に出向き、市の職員よりこちらが理解できるよう説明を受けて実践に活かしている。	認知症アドバイザーにも登録しており、健康長寿課から依頼があればサポーター研修を行う予定もある。地域包括支援センターは、運営推進会議時にアドバイスを頂いたりして、連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束0」を職員一同心掛けています。また、今現在身体拘束をするような方はいらっしゃらないが施設内研修を行い、いつも「身体拘束0」を頭の中に入れ、ケアに取り組む様にしています。	家族の了解も得て、玄関の施錠はしている。ホームでは、「身体拘束0の手引き」を作成し、それを基に研修を行い、職員全員で繰り返し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	当グループホームでは虐待は絶対がないが、管理者職員は高齢者虐待法防止法等について市の研修を受け学ぶ機会を持ちスタッフ間で常に情報交換を行っている。身体チェックは入浴時にボディチェックをし、ボディチェック表に記入をし職員がいつでも見ることが出来る様に情報の共有をしている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	統括責任者・管理者・ユニットリーダーは「成年後見人の制度」の研修を受けて、必要性を考えて関係者と話し合いをし、より良い支援が出来る様にしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については専門的な知識を持った職員が十分な説明を行っており契約者様が理解し、納得をしていただいた上で同意の署名・押印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2か月に一度の運営推進会議にて包括支援センター・民生委員・御家族・統括責任者・管理者・ユニットリーダー等で意見・要望をお聞きし、また、アドバイスも受けながら運営に反映させている。	利用者のやりたい事や毎日生き生きと過ごしてもらうには等、日頃から職員と1対1で話しやすい場所(入浴時)や、家族の面会時で、聴き取り、それを皆で話し合い、出来る事から支援を行うようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は統括責任者・管理者・ユニットリーダーの意見を聞き、提案等も聞いて運営に役立てていける様理解を示し反映させている。	月1回のユニット会議で、職員の意見や提案を聞き、統括責任者は、代表者に伝え、特に利用者の状態に関しては、適切な対応をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員が少しでもストレスが溜まらない様、リフレッシュ休暇を取れる様に配慮している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に一度の【ユニット会議】にて統括責任者を主に施設内研修を実施し職員との意見交換をしながらスキルアップをする様にしており入居者様のケアにも役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は統括責任者が同業者との交流を大切にし、その中で質の向上をしていく上において参考となる事や事例を聞いてサービスの向上に役立たせ、管理者・職員共々協力をしていき情報交換をしながら支援の取り組みができる様にしている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	御本人の悩みを傾聴し不安をなくして日々を穏やかに安心して生活できる様にコミュニケーションを取りながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	職員は家族様とコミュニケーションを取りながら日々の生活状況を報告し安心していただき、出来るだけ御家族様の要望等に耳を傾ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャーに暫定のケアプランを立ててもらい、ケアプランに基づいてサービスをし支援する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「ゆっくり・ゆったり」を基本に入居者様のお一人おひとりのペースで生活をして頂き、暮らしを共にする他の入居者様や職員と温かな安心できる生活が出来る様に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	統括責任者・管理者・職員が家族様と入居者様の掛け渡しとなりトラブルの無い様、情報を提供し、又、職員同士情報交換をし入居者様を支えていく様に心配りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも訪問して頂けるような環境作りをしている。また、手紙やはがきを送付する手伝いをし、馴染みの方も縁が切れない様支援に努めている。	過去お付き合いされていた方の訪問があったり、馴染みの美容院に家族と一緒にいかれたりしている。又、年賀はがきや手紙等、出される支援やこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤独にならない様、常に職員が声掛けをし話をしたり傾聴したりする事で孤独にならない様、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても御家族からの相談に応じられるようにアドバイザーを中心に支援に努めている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人に合った生活のあり方や希望の中で出来るだけの意向を受け入れるように職員が検討会を行いながら支援をする様にしている。(ユニット会議)	近隣のホテル等で、ランチバイキングやお茶会をしたり、おしゃれをして、出かける事で、普段以上に元気になる方も居られ、職員全員で支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	施設での生活が苦にならないように生活環境を出来るだけ整えサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のラジオ体操、口腔体操をし一日を健康に過ごして頂ける様に努めている。又、体操終了後たてたコーヒーを、コーヒーの香りと一緒に飲んでもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に一度のユニット会議で介護計画書のモニタリングを行いながらその人に合った介護計画書を作成しケアを行っている。	利用者一人ひとりの担当者は、日頃の様子や本人の思いつきを書き留めるようにしており、ユニット会議にて、責任者、ケアマネ、担当者らが、意見を出し合い、家族の意向も聞きながら通常4ヶ月に1回、ケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を読みながら日々の生活状態を把握し職員間の情報交換を密にし介護計画書の見直しに役立てている。又、職員はケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	だんだん進みつつある認知症に不安を感じる事無い様、職員の優しい声掛けと気配り、心配りで毎日を元気に暮らせるように事業所全体で支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	御自分の心身の力を発揮し無理なく心安らぐ生活を楽しむことができる様支援している。認知症カフェをオープンしたのでそこにも参加していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体である病院の医師と正看の往診が週3回あり、身体的な心配もなく安心して頂ける様、少しの体調の変化があっても医師に報告をする事により、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医(母体の病院)である医師と24時間体制の対応があり、往診も週3回あるので、利用者・家族にとっては、安心感がある。歯科医も月1回、往診があり口腔ケアや入れ歯の調整も行っている。	

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週3回の母体である病院の院長と正看の往診で安心した生活を送られており、少しでも体調の悪い時はドクターに診て頂き身体的な不安の無い様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた時には病院での生活が不安でない様に面会に行き病院関係者と情報を共有し、少しでも早く退院できる様、又、コミュニケーションを取りながら心のケアをする事により不安のない生活が出来る様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期に向けた説明は医師より説明があり、出来るだけの事はさせて頂き、ご家族の御要望に沿った支援に取り組む様にしている。	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を示し説明している。延命治療を誤解されている方も多いらしく、重度化した時に改めて説明されている。この1年間は、対象の方は、居られなかった。医師との連携が、緻密なので、家族も安心感がある。連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成し施設内研修もして、初期対応等に役立てて実践できるよう統括責任者・管理者が常に職員に指導をする様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の火災訓練を行っている。入居者様の協力を得て訓練をしている。夜勤時の火災想定訓練もしている。	防災専門業者(東洋防災)と契約しており、年2回の火災訓練を行っている。機器点検・消火器の使い方・初期消火・避難の方法等を指導してもらっている。職員、動ける入居者さんと共に訓練に参加している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員はその人の生きてきた道りをよく理解し、「親しき仲にも礼儀あり」でその人の人格を揺るがすようなことやプライドを傷つける事のない様に気配りをする様にしている。	年1回は、個人情報保護についての研修や接遇研修を行い、言葉遣いや対応について(特に入浴、トイレ時等)話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	施設内での自己決定は本人の希望で行われている。間違った決定をされそうな時はよく分かる様に説明し理解をしてもらって自己決定をする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「ゆっくり、ゆったり」をモットーに日々の生活をして頂いているので、ご自分のペースでご希望に沿った支援を職員はしている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	御自分の気に入られている洋服を御自分で選んで着て頂ける様支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や手伝いを職員と一緒にしてもらっている。又、職員が食後の片付けも声掛けをしながら手伝いをしてもらっている。	食事は、外注業者をお願いしている。メニュー表が届き、時には、刺身が提供される。又、メニューの希望も言える。皆でホットケーキやフルーツを作って食べる事もある。みんなと一緒にホテルバイキングやお茶をして、楽しんでおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員は日々の食事摂取量と水分摂取量をチェックし、一人一人の状態をチェックしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る限り御自分で口腔ケアをして頂いて職員が仕上げをする事により清潔保持をしている。1ヶ月に1回、口腔ケアの為、歯科の先生に施設に来てもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排便パターンを職員全員が把握し、声掛けをし、又誘導をしてトイレでの排泄を気持ち良いと思われる様、職員は日々自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄チェックシートを作成し、自立に向けて個別に支援している。無理のないように二人体制でトイレ誘導されている方も居られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人一人の排便状態を医師に報告し、排便コントロールの指示を頂いて強い下剤も使用せず、自然に無理なく排便をされる様にしている。今現在、皆様形状の良い便が出ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴で洗身・洗髪を出来る限り御自分で出来る所までして頂き、仕上げは必ず職員がし、ゆっくりと入浴して頂き個々に応じた入浴支援をしている。	週2回、利用者が、ゆっくり入浴を楽しめるように心掛けている。又、みんなが浴槽に入って、ゆっくりしてもらえるように職員が、二人体制で入浴支援を行う事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食をゆっくり食べられて終わると自室に入れ、ゆっくりとおやつまで横になられお昼寝をされている。夜は自室に入れ好きなテレビの番組を見られており安心して眠れる様職員全員が支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	○月○日の「朝・昼・夜」と名前を読み上げ、職員自身も確認し「ゴックン」確認し終わったら薬袋に職員名を記入し責任を持って管理をしている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	外出の計画を立てて外出をしたり誕生日の方のお祝いは大きなケーキでお祝いし、誕生日のない月は職員がリクエストメニューを聞いて皆様と楽しみながらおやつを作って皆様で食されている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族の方と一緒に掛ける方も少数いらっしゃいますが、そうでない方もいらっしゃるため、ホテルのお茶会や食事に全員参加が出来る様職員が計画を立てて希望に応じられる様に支援している。	母体である病院で、恒例になっているクリスマス会や敬老会等に出掛けたり、目の前の縮景園に出掛け散歩したり、認知症カフェに車で移動したり、家族と出掛けたりして、出来るだけ外出する機会を持つようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出した時に御自分で財布をもって御自分で買い物出来る様職員の見守りの元、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書かれたら切手を職員が張り、投函を職員がして、手紙のやり取りができる様支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様の共用空間のリビングで新聞を読まれたり、コーヒーを飲まれたり、談話をされたりと居心地の良い場を提供するために、クラシックをかけたたりオルゴールをかけたたりしながら気分を和らげてリラックス出来る様に工夫をしている。	天井の高いリビングは、ゆったりとした空間をついている。キッチンや廊下・トイレ等、共有スペースは、清掃が行き届いていて、清潔感がある。又、一日数回は、窓を開放して空気の入替えを行っている。テーブルや椅子の調度品も入居者の寛ぎ感を満たしている。あまり壁画で飾るのを好まれなくて、家族が、持ってこられたバラの鉢植えが馴染んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせる様な居場所の工夫をしている。	居室の隣同士で行ったり来たりとか施設内での近所付き合いをされ、楽しく自由に過ごせる様に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	思い出のある物や、御自分の好きな物を持って来られ今までと同じ馴染みの環境に似た状態で日々の生活が出来るように工夫し、御家族の協力も得ている。	馴染みの書棚や仏壇、テレビ、アンティーク人形等が置かれ、自分で購読されている慣れ親しんだ新聞を居室でゆっくり読まれている方も居られる。若かりし頃の雄姿の写真が飾られ、本人にとって居心地の良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	御自分の部屋で生活しやすい様に、又、今まで使っていた物を居室に入れ、安心して過ごせる様に御家族と相談しながら工夫して環境づくりをしている。		

グループホーム縮景園

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム縮景園

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 縮景園

作成日 平成30年2月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	入居者様全員参加の外出を心掛け、健康管理をしっかりとし、計画を立てるが計画通りタイムスケジュールがスムーズにいかなかった。	ゆっくりと時間を取れる計画を立て、入居者の皆様が笑顔で楽に外出ができる様、タイムスケジュールを組み立てる。	体調管理をしっかりとさせていただき、おしゃれもしっかりしていただき楽しんでいただける計画を立てる様にする。	1 2 か月
2	50	外出はしたが買物に行く事があまりなかった。自分の財布を持ってお買物をする事がなかった。	自分の財布からお金を出して買物をしていただく様に計画を立てる。	大きなスーパーに買物に行く計画を立て、車イスでも歩行でも心配しなくていい場所の選択をし、楽しんでもらえる様取り組みをする。	1 2 か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。